

子供たちと一緒に取り組むアクションプラン

これまで寺家小学校では、教育目標の実現に向けて数値目標を立てて取り組むアクションプランを行ってきました。数値目標を立てることによって、私たち教員は、課題解決の手応えを感じたり課題の捉え直しをしたりすることができました。その一方で、教員が設定した数値目標は、果たして子供たち自身が自分の学習や生活をよりよくするための意識を高めていただろうか、一方的な押し付けになってはいなかったらうかという疑問もありました。

そこで、子供たち自身が、寺家小学校をよりよくするために、積極的に考え行動する主体性を発揮することができるよう、右の表のように各委員会で担当の先生と相談して数値目標を立て、一緒にアクションプランに取り組むことにしました。

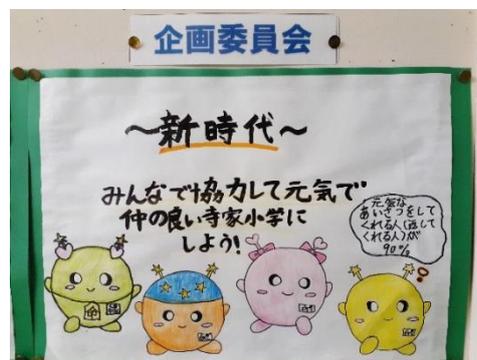
領域	委員会名	目 標	数値
知	放送情報	「キーボー島」※1で学年の級をクリアする人	85%
	図書	年間で、低学年は40冊、中学年は30冊、高学年は20冊以上本を読む人	90%
徳	企画	あいさつをする人	90%
	美化	掃除道具を正しく使っている人	85%
	集会	集会後のアンケートで楽しかったと答える人	90%
体	給食	食缶グランプリで残食0のクラス	80%
	運動	「チャレンジ3015」※2の立山編をクリアする人	80%
	保健	清潔なハンカチやティッシュを持ち歩く人	90%

※1 タイピング練習のアプリ ※2 県教委発行の体力づくりカード

以前、私が勤務していた小学校でのことです。その学校では、年1回学校祭が行われていました。半日ですが、保護者の方が各種の模擬店を開き、子供たちは事前に購入したチケットを使って、飲んだり食べたり、ゲームをしたりして楽しむというものでした。子供たちにとっては天国のような日ですが、長年、お世話をする保護者だけでは手が回らないことが問題になっていました。そこで、「6年生に手伝ってもらったらどうか」という意見が PTA から出て、子供たちに伝えてほしいと当時担任である私が依頼を受けました。これまでお客さんになって楽しんでいただいていた子供たちに、「今年からは、君たちも働きます」とはなかなか言えないなと思っていました。しかし、PTA からのたつてのお願いでもあったので、思い切って子供たちに投げかけてみました。この話を聞いてしばらく戸惑っていた子供たちでしたが、一人の男の子が挙手をして「お手伝いはしてもいいと思う。だって、ぼくたち、これまで、お母さんたちにたくさんお世話してもらっていたから、小学校最後の6年生のときぐらいやってもいいと思う」と話しました。その発言を皮切りに「買った水風船をたたきつけて、水場がいつも汚れている。ぼくは、そこをきれいにしたいな」「食べた後の容器が散らばって袋の中に入っているから、私はそれを整頓したい」「プラ容器は洗えば資源になる。洗う手伝いもできるよ」など、お手伝いのイメージが次々とわいてきて、参加の意欲が高まったのを今でも覚えています。

ずっと生活してきた自分の学校だからこそ、高学年の子供たちは、よいところも課題も知っています。私たち教員は、そうした子供たちの思いや願い、気付きやアイデアを大事にしなが、自治的な雰囲気醸成に努めていきたいと思えます。

(校長 広田 積芳)



【委員会のポスター】